

同窓会報

(第46号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 鈴木一郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
e-mail: master@chibako.net
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

ご挨拶



同窓会会長 鈴木一郎
(昭和35年卒)

千葉高同窓会の皆さまには、
ご清祥にてお過ごしのことと存じ
ます。

同窓会の共通の話題と言え
ば千葉高卒業という一言のみで、
まさにこの同窓会報はその共通
の話題を提供する重要な役割を
担っています。

けれどもこの同窓会報は、意
外にも会員の皆様に、ほとんど
届いていないのが現状で、総会
や各支部同窓会(葛城会)が開
催された時点で配布され、初め
て目にする会員が多いのが現状
でした。そこで昨年の45号同窓
会報は、一部の会員に直接郵送
をいたしました。その送付先は

これまで同窓会を通じて寄付
をいただいた方のうち、2月の
総会に参加されなかった方、約
1500名の会員を対象とさせ
ていただきました。また今回初
めての試みとして、会報と一緒
に郵送費など事務経費の為に
と一口1千円のご寄付をお願い
したところ、多くの賛同を得て
107万3千円ものご寄付をい
ただきました。

これを機会にこの寄付文化が
育つてくれれば、これを原資に
紙面の充実と共に、さらに多く
の会員の皆様に会報の配布も可
能になると考えます。この会報
を通じて最近の母校の様子や、
友人や知人の現在の消息を知
り、急に母校を訪ねたくなる人
もあるでしょうし、昔の仲間
に連絡を取る方もいると思います。
幅広く原稿を集め情報の詰ま
った会誌に育つてくれればと期待
します。そして内容の充実と共に、
配布先を増やし、同窓会会
員相互の絆をさらに強くするこ
とによって、千葉高卒業生の活
躍の場が広がれば良いと思いま
すし、この同窓会活動がさらに
活発なものになればと思います。

重要です。千葉高同窓会名簿は
2009年の130周年記念に
阿佐幸雄事務局長が編集したも
のが最後で、その後は個人情報
保護の問題もあり、印刷名簿の
発行は困難になっています。で
すが、組織を維持するためには、
この会員名簿はきちんと整備さ
れている必要があります。そこ
で昨年の定時理事会にもお諮り
しましたが、この名簿をデータ
ベース化し保存ならびに活用を
図ることにいたしました。

幸い昭和48年卒の内田智子君
がこの方面の専門家で、阿佐事
務局長、森茂副会長(昭44)そし
て名簿委員長である沢田君と協
力して、これまでの千葉高卒業
生の総て、卒業名簿一番の明治
14年7月16日卒の木内重四郎氏
から平成28年卒業生まで、総数
3万6622名の全卒業生名簿
をデータベース化する事が出
来ました。

の情報集約が重要です。

母校内にある記念館(美術館)
の一部を同窓会事務室として使
用できるようになったことは報
告しましたが、その後、事務局
直通の電話とFAXを設置しま
した。この電話は何時でも事務
掛の沢田君に転送されますので、
各支部、学年理事、そして会員
各位の情報提供をよろしくお願
いいたします。また従来同様に
同窓会ホームページやメールも
ご利用ください。

会報第46号 もくじ

ご挨拶..... 同窓会長 鈴木一郎	1
千葉中・千葉高の近況 学校長 鈴木政男	2
葛の花会の回顧と展望 葛の花会会長 永田忠以	3
事務局近況... 事務局長 阿佐幸雄	3
支部だより.....	5
若手交流会報告.....	8
OB会だより.....	8
学年短信.....	11
葛城人脈②市川雅夫さん.....	18
同窓会支援事業 社会人講演会.....	20
葛城だより・編集後記.....	20

県立千葉中学校・高等学校近況



校長 鈴木 政男

千葉高等学校同窓会の皆さまには、日頃より物心両面からの暖かいご支援をいただき、感謝申し上げます。平成26年に着任して、3年目の勤務となりました。高校は139年目という伝統校であり、中学校は中高一貫教育校として創立され、9年目を迎えました。中学校の卒業生は千葉高校に入学しますが、既に3期生が高校を巣立って行ったところです。

様々な機会にお会いする同窓の皆さまからは、いつも母校に対する誇りと愛情、そして後輩たちへの期待を強く感じてきました。この拙文をお目にかけるときには残り2ヵ月弱の校長ですが、最後までしっかりと職責を果たしてまいります。

さて、前年度同窓会総会以後の学校の近況を報告させていただきます。昨年3月10日には、

県教育庁学校危機管理監の平林秀介様、同窓会副会長・森茂様にご臨席いただき、第6回千葉中学校卒業式を挙行いたしました。その後同16日から25日まで、希望する卒業生はボストンでの海外異文化学習を行い、大学や先進企業の見学などさまざまな体験をしてきました。また、高校の卒業式は、鈴木一郎同窓会長ご臨席のもと同18日に挙行し、千葉中の3期生も一緒に卒業していききました。

新年度になり4月7日午前高校、午後中学校の入学式を行いました。同28日は、学年ごとに校外学習を実施しました。創立百周年を記念に始めた九十九里浜での強歩大会から変更して2年目です。

少し飛んで9月17日・18日は、中高一緒に千秋祭を催しました。4年間続いていた耐震補強工事のため6月開催となっていた文化祭でしたが、今年から以前の9月開催に戻しました。日

頃の部活動の成果発表やクラス演劇など充実して盛況のうちに終えることができました。

10月30日から11月1日は中学2年が奈良へ伝統文化学習、11月13日から16日は高校2年が京都へ修学旅行と、古都の文化を学んできました。高校については、宿泊先の旅館が開業以来初めてという食中毒を発生させてしまい、そのことがまだ分からないうちに入館したため、本校生徒も体調を崩し、旅程に多大な影響を受けてしまいました。

部活動等ではそれぞれたいへん頑張っています。将棋女子団体は、メンバーがみな入学してから指し始めたのですが、3年の綿貫さんを中心に、全国大会へ出場した上、予選も突破しました。新人戦でも2年の丹さんが全国・関東の切符を手に入れています。競技かるた愛好会は全国大会の千葉県代表チームに3年の小川君が入りました。新人大会では、2年の高谷さんが関東です。陸上では、走り幅跳びで3年の佐藤君、400mで2年の三橋君が関東に出場、新人戦では2年の大熊君が三段跳びで県優勝を果たし、日本ユース選手権で9位となりました。水泳では2年の加藤君が400m

メドレーで県優勝、200mメドレーでも関東大会出場、選手権大会では200mで優勝しました。弓道では2年の大野さん飯田さんが関東選抜に出場です。また、全国大会には遠いのですが、夏の高校野球甲子園予選では、3年ぶりに1回戦を突破しました。対戦相手は成東高校で、投手の岩崎君が素晴らしい投球をし、みんなで守りぬぎ、最後は主将の細見君のサヨナラ犠牲フライでした。試合後の校歌は嬉しさに感激して涙で歌えませんでした。また、部活動ではありませんが、中学3年の千葉君がロボカップジュニア団体世界大会の優勝メンバーとなりました。

第2学年卒業生講演会では、歯科医の岡崎 真様、上智大学の橋本 剛様、森林総合研究所の松永正弘様(平元卒)、陶芸家の中川篤史様(平2卒)、東芝の駒野雄一様(平9卒)、ミネルヴァ書房の東寿浩様(平12卒)、国土交通省の千葉園子様(平18卒)の皆様方、大変お世話になりました。さらに名古屋大学大学院教授・時田恵一郎様(昭59卒)には大学の模擬講義でお世話になりました。ありがとうございました。また学校の行事

ではないのですが、高校のPTA全国大会が幕張メッセで開催され、その締めくくりに女優の市原悦子様(昭29卒)の記念公演(講演ではなく公演、とのご本人の見解だそうです。)が大好評でした。この大会では、2年の滝田君が分科会のパネリストとして登壇し、絶賛されました。葛城の岡で切磋琢磨する中高生たちには、昔と変わらず今も、無限の可能性が秘められています。その可能性が大きく花開くようしっかりと応援をします。同窓の皆さまにおかれましては、今後とも、ご声援とご支援をよろしくお願いいたします。



葛の花会の回顧と展望



葛の花会会長 永田 忠以

(昭和37年定卒)

て存続できていることはありがたいことです。

さて、葛の花会は当時柔道部顧問であった西林先生を中心に毎年正月10日新年会を催す「十日会」が前身となっています。

次第に会として結実し、第一回の葛の花会が開かれたのが昭和42年12月のこととなります。現在は記念館(美術館)となっていますが、当時は給食室で行っていました。同窓会も体育館で

開催していたと記憶しておりますが、思い出の学校で先生方と共にひとときを過ごさせてもらいました。

100名以上の参加のあった会でありましたが、先述の通り新たに卒業生が増えていく会ではありません。しかし会員が減少するなかでも変わりなく会を維持していく決意を持っております。会報を拝見すると卒年度や地域での集まりが多くあることを再認識しております。葛の花会や同窓会は垣根を越えた縦の集まりだと思えます。これからも各会とのつながりを大切にしていき、母校と共に歩んでいければ幸甚であります。

平成14年から始まった125周年記念事業で、当時の霜会長から事務局長を仰せつかり、5千万円の募金目標趣意書を全会員に送ることもあり、發送依頼を行うため、どうしてもデジタルデータが必要になりました。120周年版名簿をOCRでエクセルデータに変換しました。以降125周年、130周年と2冊の名簿を発行し、皆様からの情報で修正してきました。今回のシステムのベースになったのも、その時に作成したものが基になっています。

名簿管理システムの

セキュリティは万全です！

昨年度4月より8ヵ月を掛けて名簿のデータベース化を行い、年末に無事完成し同窓会総会に間に合わせることができました。今回のシステムはセキュリティに特に力を入れて創りました。独自に組んだオーダーメイドですので、安全性は万全です。

信頼できる管理者にのみIDとPWを発行して、そのIDとPWでシステムに入ることができ、PWは期限付きで期間を過ぎると使用できないように設定しています。今後もセキュリティには万全を期しますので、

ご不便をかける場合がありますが、ご理解をお願いいたします。

このシステムの元は、会長も書いておりますが、2年前の総会担当年度であった昭和48卒の内田智子さんから、参加者集計用のシステムを作りたいと申し出がありました。

同窓会のサーバーを使い総会案内を出す理事・役員400名と48卒の名簿を入れるもので、800名の名簿をベースでした。同窓会の負担は不要とのことなので、創っていただきました。

出来たものを拝見して、良く出来ているので、昨年の定時理事会に名簿作成の準備金の一部を使い、私達の同窓会にマッチした名簿管理システムを創ることを提案し、了解を得て4月着手、12月に完成できました。

以前は、総会担当の事務局員(同窓の現職教師)が、皆様からの返信はがきや電話、メール等で集まった情報を手入力で集計して、参加者名簿を作成していました。返信期限を守らない方が多い本会では、大変な作業でした。総会2週間前に開催する理事会に中間報告が出せないのが当たり前でした。

今年度、総会を担当した昭和50年卒の方や総会担当の事務局

事務局の近況報告

同窓会事務局長 阿佐 幸雄

(昭和35年卒)

事務局の整備状況

一昨年、懸案であった事務局室によりやくエアコンが入り整備の途につきましたが、昨年度は、鈴木会長が書かれているように、同窓会専用の電話と

FAX回線を引くことができました。今まで学校の電話をお借りしていたのですが、同窓会の自立が少し進んだと思います。また事務用のパソコンと複合プリンター、会議用の椅子を数脚購入しました。

名簿データについて

同窓会の名簿データが私の手を離れました。そもそも名簿に関係するようになったのは、120周年名簿作成時に当時の霜編集委員長から副委員長に指名された時からです。

の先生には、かなり負担が少なくなつたと思います。ちなみに今年の定時理事会では、オンラインで参加者数を出席者に伝えることができました。

メンテナンスに

ご協力をお願いします

今後は、毎年卒業される後輩をこのシステムに追加する作業があります。本年度はそれに加えて、昨年度は時間的制約で加えられなかった事務局からの要望事項を追加して、さらに使いやすいシステムにする予定です。

名簿は常に動いています。特に若い方々は転勤・転居も国内だけでなく世界規模になっているので、ますます頻繁に更新が必要で、ネットからの連絡が多くなっています。同窓会では、同窓生からの情報をもとに名簿の修正を行っています。同期会を開催した時に新しいデータは事務局へご連絡をお願いいたします。

変更情報の連絡は、

◎同窓会ホームページ経由

①住所登録や情報提供から登録。

②コミュニティサイトから登録。

◎同窓会事務局へ連絡する

③事務局へ電話連絡。

④はがきやFAXで連絡。

同窓会報の配布

同窓会報は従来、同窓会総会や地域葛城会あるいは在校生を通じての配布などが主で、鈴木会長の挨拶にもあるとおり目にされた卒業生も意外と少ない状況でした。前々号44号は新運動場建設への寄付をいただいた方へのご報告に使うため部数を増やしましたが、それでも印刷は4500部でした。前年の45号は、千葉高卒業という同窓会共通の話題をさらに提供できるよう、印刷部数を増やし、地域・職域葛城会やクラブOB会、あるいは同期会などへの配布拡大を図りました。

またこれまで同窓会を通じて母校に寄付していただき、昨年の総会には参加されなかった1500名ほどの方にトライアル送付をいたしました。その際に個別送付などの事務経費のために一口1千円のご寄付をお願いしたところ、多くの賛同を得て、107万3千円ものご寄付をいただきました。個別送付した方の一割を超えるご寄付に心から御礼申し上げます。ご紹介いただいた方のお名前をご紹介いたします。なお事務局は、個別に郵送しても5年程度の送付が可能と想定して一口千円といたしました。1万円以上の高額寄付をいただいた方は太字で表示してあります。(敬称略・卒年順)

【昭和17年】

池田 佐嘉衛
梶村 昇
中台 清治

【昭和18年】

堺 一雄

【昭和19年】

石井 貞一
一柳 博信

【昭和20年】

伊藤 昭一郎
斎藤 俊和
中村 彰
山越 通俊

【昭和22年】

伊勢本 一郎

【昭和23年】

長橋 保博
長谷川 工
森岡 節夫
屋代 昭

【昭和24年】

小出 善三郎
高長谷 禮司

【昭和25年】

岡野 正義
安田 敬一

【昭和26年】

石毛 敬祐

【昭和27年】

秋庭 尚正
豊田 一義
藤崎 勝

大塚 徳彦

【昭和28年】

北林 健夫
深沢 規夫
松本 義明

【昭和29年】

阿部 猛

【昭和30年(定)】

市原 悦子
小坪 猛夫
高橋 冬美

【昭和31年(定)】

和力 蔵

【昭和32年】

赤塚 光朗
黒川 静

【昭和33年】

早崎 胖男
林 晴男
牧之瀬 強

【昭和34年】

市川 豪一

【昭和35年】

市原 康一

【昭和36年】

川島 鑑司
榎田 睦雄

【昭和37年】

岡本 裕之

【昭和38年】

佐久間 邁
篠崎 玄幸

【昭和39年】

田中 洋一
土屋 富士雄

【昭和40年(定)】

村雄 弘尚

【昭和41年】

堀野 雅子
川嶋 一夫

【昭和42年】

久保田 光一

【昭和43年】

中野 彰子

【昭和44年】

松崎 昇

【昭和45年】

梅田 公利

【昭和46年】

今城 純子

【昭和47年】

松田 一郎

【昭和48年】

梅田 公利

【昭和49年】

小口 学

【昭和50年】

森塚 陽信

【昭和51年】

関 陽児

【昭和52年】

白井 護

【昭和53年】

高橋 真人

【昭和54年】

鈴木 洋人

【昭和55年】

小栗 新

【昭和56年】

山本 誠司

【昭和57年】

倉持 宏明

【昭和58年】

田島 ますみ

【昭和59年(定)】

安田 有希子

【昭和60年】

依田 拓之

【昭和61年】

西村 克樹

【昭和62年】

中田 弥生

【平成4年】

坂本 敦史

支部だより

☆長生茂原葛城会

事務局 山口光濟
(昭和39年卒)

第61回長生茂原葛城会の総会は、平成28年10月1日茂原市の「一茂」にて開催されました。

武富恒徳教頭、鈴木一郎同窓会長、阿佐幸雄事務局長のご臨席をいただき、総勢15名でした。

総会は恒例どおり穴倉会長の挨拶から進められて無事終了し、懇親会へと移っていき、若かりし頃のエピソードに花が咲き、さらに出席者の近況報告をし合い、最



後に新旧校歌、戦歌の合唱などをし、次回の再会を誓いお開きとなりました。

会もだんだん高齢化が進み、若い会員の参加を見ないようです。どうか新しい力をお願い致します。

☆東京葛城会

第57回東京葛城会

幹事年度代表 土屋保之
(昭和57年卒)

第57回東京葛城会総会及び懇親会は10月28日(金)午後7時から、上野精養軒で開催されました。来賓としてお迎えした千葉高の鈴木



政男校長、櫛部健夫同窓会副会長、恩師の越川芳雄先生を含め96名が集いました。今年は昭和57年卒が年度幹事を務め、受付や司会進行など運営に携わりました。

開会前には昭和47年卒追分史朗先輩が制作されたDVD「学び舎のいま」を上映し、昭和57年卒小島成文さん、蔡美穂さんの司会で進行しました。開会挨拶、物故者への黙祷の後、中村浩紹会長挨拶、箕輪正美事務局長の会務報告、来賓の鈴木校長、櫛部副会長、越川先生の挨拶と続き、参加者最年長の斎藤喜久三先輩(昭和22年卒)のご発声で乾杯し、懇親会に移りました。歓談中は、参加者最年少の平成25年卒境田花怜さんが、所属する上智大学管弦学部の仲間を募って結成した弦楽四重奏団「ソフィアカルテット」の奏でる室内楽が懇親会に彩りを添え、にぎやかに時を過ごしました。途中、境田さんの次に若い平成22年卒の鈴木祐河さんの挨拶を挟み、弦楽四重奏が終了すると、宴もたけなわ、締めめのセレモニーに移ります。

まず、来年2月の同窓会総会の幹事年度を務める昭和50年卒佐久間芳智先輩から総会出席の呼びかけ、その後、来賓・役員の皆さんや諸先輩、幹事年度がス

テージに上がり、恒例の千葉中、千葉高校校歌斉唱です。今回は伴奏に百周年記念レコードの音源を使用しました。校歌の後、昭和57年卒同期会代表世話人豊田聡さんの発声でエール、そして三本締めを行い、来年の幹事となる昭和58年卒を代表して道添宏樹さんが閉会の挨拶を行い、2時間余りの会がお開きとなりました。

☆東金葛城会

幹事 岸本雅邦
(昭和39年卒)

第38回東金葛城会の総会は、平成28年4月24日東金の割烹志津本で17名の出席をいただき、な



阿佐幸雄同窓会事務局長、鈴木政男学校長をお迎えし、和やかな雰囲気の中に開催いたしました。当日は遠路お運びいただき誠にありがとうございました。

又当日はゴルフコンペを開催し、親睦に努めました。最近と同窓会の出席者が減る傾向にあり心配です。山武郡及び東金に千葉高卒業生がおりましたら幹事までお知らせいただければ幸いです。

☆成田葛城会

会長 松田徹之
(昭和39年卒)

私は、平成28年12月18日開催の成田葛城会において会長に就任いたしました。会員相互の親睦融和及び同窓会の発展に尽くしてまいりたいと考えておりますのでよろしく願います。

成田葛城会は、平成15年11月15日に千葉高校同窓会成田支部として設立総会を開催し、初代会長に真鍋博会長(昭和31年卒)が就任しました。真鍋会長が平成26年9月に逝去され、その後任の諸岡孝昭会長(昭和36年卒)も平成27年11月21日の総会の5日後に逝去されてしまいました。このような中、平成29年が当葛城会にとっても同窓の皆様方にとっても平穏で明るい年になることを

祈っております。

さて、昨年12月18日に市内ひかたや第二支店において第14回成田葛城会を開催しました。同窓会からは榎部健夫副会長、学校からは鈴木政男校長、また佐倉葛城会から片岡寛会長及び山田敏夫副会長にご出席いただきました。当会員の出席は15名と若干少なくはありましたが、御来賓の方々から同窓会や学校の状況をお聞きし、また学生時代の思い出や各々の近況報告など話に花が咲き、年の瀬の楽しいひと時を過ごすことができました。

☆佐倉葛城会

副会長 山田敏夫
(昭和42年卒)

平成28年(第15回)佐倉葛城会を12月3日に佐倉市新町の房州屋において開催いたしました。

懇親会には来賓として阿佐幸雄同窓会事務局長、武富恒徳千葉高校教頭、松田徹之成田葛城会幹事長にお越し頂き、総勢24名で楽しい一時を過ごしました。

今年も遠くは町田市、龍ヶ崎市から仲間が駆けつけて頂き、懇

親会も一段と盛り上がりました。当会では恒例となりつつある渡辺誠治顧問(昭和27年卒)のミニ講演会では、「旧制千葉中学校最後の入学試験とその前後」と題して終戦直後の試験事情、今の時代からは考えられない授業の有様をお話し頂きました。渡辺顧問には千葉高創設時期の語り部として、来年以降も興味深いお話しを頂くことをお願いしました。



総会後の役員反省会では、若手会員加入への働きかけを強く進めることを申し合わせ、総会の開催時期についても六月初めに行うことを決定いたしました。

☆千葉葛城会

会長 佐川信夫
(昭和33年卒)

参議院選挙の日程がなかなか決まらない中、見切り発車で7月18日に第8回の総会開催を決めました。例年より旬日ほど遅れで暑中となつてしまい、高齢者の方々の出席が心配されましたが、S25年卒の矢島肇氏からH16年卒の吉野洋祐君まで年齢差54歳の99名が参集し、鈴木政男校長、鈴木一郎会長をご来賓としてお迎えし、ご挨拶を頂きました。

アトラクションとして船橋市在住で(株)電通に勤務しながら、長年音楽家として活躍されて来たシンガーソングライターのS49年卒の高村洋一さんのギター演奏と歌に酔いしました。又変った趣向として、静かなブームとなっているベリリダンスをバルシユ・オリエンタルスクールの皆様に披露して貰い好評を得ました。恒例の大抽選会も盛況で瞬く間に予定時間を過ぎてしまいました。毎回のことですが担当される事務局の方々には感謝に堪えません。



千葉市及び近郊に在住の同窓生は8、9千名と云われていますが、全員に通知を出すことは不可能ですので、現在は各学年幹事の方々の熱意をお願いして参加者を募っている状況ですが、より盛況とする為の模索を続けております。

☆養信会(市原支部)

会長 鈴木雅博
(昭和33年卒)

養信会は、市原市の中央を流れる養老川と南部の音信山などの自然を取り入れた名称として、

長い歴史を重ねて来ました。最近では養老溪谷を訪れる観光客が増え、特に紅葉の季節は、小湊鉄道が大変混雑している状況です。総会は不定期に開催されていますが、本年(平成29年)初夏には三年ぶりの総会を開催したいと考えています。卒業生名簿は整備されていますが、毎回の出席者は約40名程度で、特に若い同窓生の出席が少ないのが悩みの種です。今後は出席者が多くなるよう努力したいと考えています。

☆県庁千友会

会長 大塚浩雄
(昭和52年卒)

千葉県庁の職域同窓会である千友会は、現在の会員数が243名であり、毎年秋に総会を行っています。

今年度は11月1日、鈴木校長先生、鈴木同窓会長、門山代議士、佐渡四街道市長、そして県庁の先輩方にもお越しいただき、約70名の参加により盛会のうちに終えることができました。

総会では、来賓の方々のお言葉や母校の様子の紹介のほか、ご勇退された先輩からのエールや新入会員の力強い挨拶など、これまで培われてきた会の絆が感じられました。最後は、恒例である参

加者一同の校歌斉唱で締めくくりましたが、特に若い世代が多く参加してくれたことは、これからの会の発展が期待でき、来年度の開催が大いに楽しみです。

☆千葉市役所葛城会

会長 増田由一
(昭和50年卒)

千葉市役所葛城会は約100名の会員を擁しており、平成28年度は4名の新会員を迎えました。平成27年度の総会は、平成28年2月16日に開催しました。

会場は、これまでとは趣向を変え、若い会員にも出席しやすいようにホテルではなく、カフェダイニングレストランでの開催を試みました。参加者は27名で、当日参加した新会員3人の紹介、あいさつ、乾杯と進み、各テーブル和気あいあいとした雰囲気の中で総会は進行しました。

知らないうちに席が入れ替わり、あちらのテーブル、こちらのテーブルで笑い声が聞こえ、楽しい時間を過ごすことができました。懇談の中では、それぞれの所管事業を抱える中、同窓ということで集い、先輩方の昔の経験を語っていただいたり、若い職員の悩みを聞くことができたりと、職場の上下関係を越えた交流ができたように思えました。当然ながら

ら最後は高校生時代に戻って校歌の斉唱をして幕を閉じました。千葉市役所葛城会としてはこのほかに、女子会の開催や退職された先輩方との交流会もおこない、会員の親交を深める活動を心掛けています。

☆ゐのはな一杯会

(千葉大医学部)

会長 田邊政裕
(昭和42年卒)

平成28年7月17日、京成ホテルミラマールにて、平成28年度



のはな一杯会が開催されました。

会員は、千葉中学校、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生です。今年度は新入生が5名加わり、卒業生30名、在学生7名が参加しました。

総会では会則の一部変更、会計報告や今後の運営など討議されました。その後の懇親会は、最長老の市川邦男先生(昭和20年卒)の乾杯のあいさつでスタートし、新入生の挨拶、各先生方の近況に加え、学生時代の思い出、千葉大学医学部の最近の話題など多様なスピーチで大変盛況でした。参加者一同集合写真を撮り、その後閉会となりました。

☆千葉銀行葛城会

会長 池田知行
(昭和54年卒)

平成28年度の千葉銀行葛城会の総会は7月13日京成ホテルミラマールにて開催し、55名の会員の皆様にご出席いただきました。また、ご来賓として鈴木政男校長先生をはじめ、千葉県水道局長の田谷徹郎さん(昭和50年卒)、千葉県防災危機管理部長の浜本憲一さん(昭和50年卒)、京成電鉄(株)

常務取締役の加藤雅哉さん(昭和54年卒)、JFEスチール(株)の常務執行役員千葉地区副所長の斉藤輝弘さん(昭和54年卒)をお迎えし、世代や職場を超えて交流を深めることができました。

千葉銀行葛城会は28年度も新たに4人の新入会員を迎え、現在現役会員150名及び銀行OB15名の総勢165名の会員がおります。

当日は、最近の母校の様子を校長先生から詳しくご紹介いただいたほか、ご来賓の皆様からご挨拶を頂戴しました。また、毎年演奏をお願いしている千葉高校合唱部からは、合唱部員24名(引率：飯田仁志先生、川俣正仁先生)により、素晴らしい合唱曲を披露していただきました。最後に、新入会員から自己紹介と決意表明があり、石井俊昭さん(昭和36年卒)による激励の言葉の後、参加者一同で校歌を斉唱し、お開きとなりました。

☆葛城建友会

会長 櫛部健夫
(昭和44年卒)

11月15日午後6時半から、葛城建友会の第341回例会(11月例会)がホテルプラザ菜の花で開催されました。今回はちよつと少なめの12名の参加で、会員の中心



山泰正さん(昭和42年卒)の建築にまつわる興味深いお話や会員相互の経済、社会や国際状況にまで至る多様な話題での懇談に、あっという間に楽しい2時間が過ぎました。

昭和58年に誕生した当会は、数ある千葉高同窓会会合の中で唯一毎月例会を開催してきました。当初は建設業関係の方が主体でしたが、今では弁護士、歯科医師、経営者、サラリーマンそして悠々自適の方等いろいろな方々の集まりです。会員数は60名余り、最年長は昭和32年卒、最年少は平成13年卒、女性会員は4名で、毎月第3火曜日の例会には20名前後の方が出席し懇親を深めています。

毎月の例会と言っても出席義

千葉高若手交流会

東 寿浩

(平成12年卒)

平成28年10月22日(土)に、第6回千葉高若手交流会を諸先輩方のご支援の下、有楽町にて開催させていただきました。今回も平成卒の大学生・若手社会人を中心に50名程度の参加者が集い、懇親を深めました。

会の途中に平成13年卒のジャズギタリスト・田中裕一さんの生演奏があり、しばしギターの音色に耳を傾けました。その後のPRタイムも希望者が続出し、様々なフィールドにおいて全力で頑張っている若手卒業生たちの情報交換の機会になったことと思います。その後、二次会は会場を移して銀座の居酒屋へ。そこからの

務があるわけではないので、都合のいい時に出席し、同窓生の幅広い年代の方やいろいろな職業の方との気兼ねのない会話や情報交換、そして時には真剣な議論などを食事(お酒も)と共に楽しんでいます。ご興味のある方は、葛城建友会のホームページ(<http://katsuragikeyukai.web.fc2.com/index.html>)をご覧ください。ぜひ一度例会にご出席ください。お待ちしております。



参加者も多く、短い時間でも交流したいという確かなニーズを感じました。これからの時代を生き抜いていくためにも、母校、そして社会に貢献していくためにも、人脈は力になると思います。今後も引き続き若手交流会へのご支援を何卒よろしくお願いいたします。

OB会だより

☆水泳部 OBOG会

葛城水泳会会長 宮下賢一

(平成2年卒)

平成28年9月3日、22年ぶりに葛城水泳会(水泳部OBOG会)総会が開催されました。

水泳部は昭和5年に創部され、戦前から千葉県内や都内各高校との定期対抗戦などを活発に行っていました。ス

イミングクラブ全盛を予見した当時顧問の故岩瀬和博先生が昭和43年に県内初の水球チームを創設。以来、最盛期には二十数校を有する全国一の激戦区となった千葉県にあって、関東大会出場常連校として、インターハイ出場まで何度もあと一歩に迫る活躍を見せました。その後、平成15年より実施種目は競泳に一本化され、現在に至っています。

このような経緯をたどる中、世代種目を越えて同窓が一堂に集う機会は久しくありませんでしたが、水球経験者で安房高校時代に国体準優勝の経



歴を持つ福原基行先生が水泳部顧問に着任され、今回の総会開催に至りました。

当日、まずは「プール集合!」昭和60年竣工のプールは、若い世代には懐かし、また戦前からの旧プールを知る大OBには真新しく映りました。前半は競泳を行い、コースロープを張ったプールで在校生を交えた全員参加リレーや、記録会での好記録に歓声が上がりました。

後半は水球。水球OBが当時のゴールを手早く設置し、未經

験の若手OBや現役を交えた全員参加での試合を楽しみました。

現役とのエール交換後、千葉中央駅前のイタリア料理店に移動し、総会を開催しました。新川謙一先生(昭和54年/平成6年)をはじめとする歴代顧問を主賓とし、81歳から18歳まで総勢75名の参加がありました。福原先生からは現役選手の活躍が報告され、また現在千葉水球クラブの総監督を務める古宮一郎氏(S46卒)からは、32年ぶりに男子が五輪出場を果たした水球日本代表について解説をいただきました。

最後に、宮下が葛城水泳会の新会長に選任され、また今後の葛城水泳会の方向性について、次年度以降も現役学生の支援を主眼に継続的に活動を行うこと、また今回連絡が付かなかった年代とも縁を復活させることを採択し、21世紀初の総会をお開きとしました。

☆バレーボール部OB・OG会

千葉県バレーボール部OB・OG会

幹事長 枝松宏明

(昭和46年卒)

千葉高バレーボール部は、昭和24年に排球クラブ(女子部は

翌25年)として創部され、爾来60有余年、昭和27年に国体へ出場、関東大会へは5回の出場など足跡をきざりまわりました。

しかしながら、「顧問の先生を囲む会」や「各学年などの個別の会」は開催されていたものの、全体のOB・OG会は存在しませんでした。そうした中、平成22年に有志の尽力により、「会員の親睦を深める事」、「現役部員たちを支援する事」を目的としてOB・OG会を立ち上げるに至りました。

本会は今年で設立6周年を迎えました。将来にわたって、この会を存続させるために「会則の



制定」、「運営体制の発展的強化」を目指してまいりました。平成28年11月に開催された第3回総会では会則、新運営体制が承認されOB・OG会の基盤が確立いたしました。あわせて、会員相互のコミュニケーション促進のため、ホームページの内容充実、及び機能強化を行いました。平成30年11月に開催される第4回総会は「創部70周年の記念総会」となります。これを機に、会員相互の親睦・交流の輪を更に広げると共に、現役支援の充実を一層図ってまいります。

☆ラグビー部OB会

会長 長 英連
(昭和52年卒)

平成23年2月発行の第40号に初めて投稿して以来5年間は、現役支援の話題を掲載していただきました。現役支援の取り組みとは、巨大弁当箱(容量4リットル)贈呈をはじめ、外部コーチの招聘、保護者会との連携強化であり、菅波組、矢野組、そして来季の澤井組へと継続して参ります。

さて、ラグビー部も創部45年を経て、初代及び二代目は還暦を迎えております。今まで現役支援に傾注してきましたが、歴史を作ってきた先輩に敬意を表



し、3月の総会にて、赤いポロシャツを送ることとなりました。デザインは現役と同じで、応援の際は一目で創成期のOBとわかるようになっていきます。贈られた先輩も満面の笑顔であり、ラグビー部OB会の伝統行事になっていくと思います。

幅広い年代が集まれるのは同窓会も同じですが、濃厚な時間を過ごしてラグビー部への思いは、格別なものがあります。これからはOBのネットワークで得られる最新の取り組みで、現役支援を続けてまいります。

☆弓道部OB会

副会長 森 茂
(昭和44年卒)

《弓道部誕生50周年記念行事》

(報告)

平成28年7月17日(日)、10時

3時半、《千葉高校弓道部誕生50周年記念行事》が、弓道部とOB会の共催で開催された。梅雨最中で天候が心配されたが、参加者(約80名)全員の日頃の心がけヨロシク、雨は降らず!

【第1部・記念射会】は、記念館南側の弓道場(高校創立百周年事業の一環として整備)で。

まず、弓道部8期の鳥居さん(教士・6段)の「矢渡」で厳粛に始まり、一人8射の競射に参加したのは、現役二年生+OB会員の27名。30年ぶりに弓を手にするOBもいて、引き締まった雰囲気の中ではあるが、時折りホホエマしい光景が混じる。

結果は、弓道部「50周年」記念に合わせたかのように、ちょうど50期のOB会員(大学生の牧山君)が「8射皆中」して拍手が湧き、記念射会に華を添えてくれました。

【第2部・記念懇親会】は、県庁隣の「プラザ葉の花」で。

記念写真の撮影に始まって、懇談は2時間余りの立食スタイルで、そここに話しの輪が出来て盛り上がり、肩を組んでの校歌斉唱で開きとなりました。

弓道部の歴史は、50年前とな

る昭和40年10月、「弓道同好会」として誕生し、「旧2mプール」の中に古畳を立て掛けての練習から始まりました。1期・2期合わせて18名・・・それが今や、現役生とOB会員を合わせると、800名余り。現役生は、6人立ちの千葉高弓道場を本拠に、射技を指導してくださる顧問(古味先生)にも恵まれ、近年は当然のように関東大会や全国大会にも出場しています。創設期のOBからすれば、まさに隔世の感!!弓道の奥深さはもちろんのこと、クラブ活動そのものの楽しさも大いに味わいながら、事故無く(飛ぶ矢はアブナイ!)活動してください。その積み重ねが、きつと次の60周年につながっていくことでしょう。

弓道部OB会も、可能な限りの支援をお約束します。

☆サッカー部OB会

山越 裕
(昭和43年卒)

《青木克己先生、千葉県サッカー協会会長に就任、サッカー部OBらで「お祝い会」》

昭和40年代の前半、サッカー部は畑山明先生、青木克己先生のお二人に指導して頂きました。その青木先生がこの度(日28年6月)、(公財)千葉県サッカー協会



の会長に就任されました。サッカー部OBが中心となり9月上旬千葉市内のホテルでこの会長就任をお祝いしました。「お祝い会」には畑山先生をはじめ在職中の卒業生を中心に野球部、テニス部、陸上部OBなど40数名が参集しました。

青木先生は昭和40年4月に当時25歳で着任され、昭和46年3月に八千代高校に転出されるまでの6年間、畑山先生と二人体制でサッカー部の指導に当たら

れ、昭和42年には千葉高の埼玉国体出場、昭和53年に八千代高校での高校総体、全国高校サッカー選手権優勝など数多くの成績を残されました。

サッカー部は、畑山先生の「生活の中にサッカーを」の指導もあり、千葉県や日本のサッカー界に多大な貢献をしているOBを数多輩出しております。Wカップ出場を目指し日本サッカーのプロ化をいち早く提唱、現Jリーグを創設して専務理事を務めた本之本興三氏(S42年卒)、千葉高体育科教師(サッカー部顧問)のあと千葉県サッカー協会の専務理事を長く務めた中臺由紀夫氏(S46年卒)、長年国際審判員を務め現日本サッカー協会常務理事の松崎康弘氏(S47年卒)などをはじめ多くのOBが中学、高校、大学、企業でサッカーの指導者、サポーターとして活躍しています。

☆山岳部OB会

布施博孝

(昭和46年卒)

山岳部OB会は現在、昭和26年卒の久山会長を筆頭に大凡280名で構成されています。活動は各会員が主体的に行う「山行」が基本ですが、会への参加形態は極めて自由です。従っ



てOBの多くは、自身の生活に合わせて様々なスタンスで山に関わっています。

つまり卒業後更に厳しく高度な登山に挑み続ける人もいれば、仕事等で長く山から遠ざかり、定年後再開して毎週国内の山に出掛け、更には海外の山にまで足を延ばしたりする人もいます。

また処々の理由から山の想い出を抱きつつ山には行っていない人もいます。

そんなOBを繋いでいる会の催しは、年一度企画される「OB会山行」と現役高校生部員代表が部報「針葉樹」(今年は57号)を携えて参加してくれる「OB会総会」があります。

今年のOB会山行は5月22日、奥多摩湖の北東に位置する標高1225mの本仁田山で行いました。参加者は昭和36年卒の某氏から小学5年生を含む総勢8名。奥多摩駅(343m)から本仁田山山頂を経て鳩ノ巣駅に至るコースは流石に奥多摩三大急登と言われ、882mの標高差は小学生以外の我々には久々に堪えました。しかし、新緑とヤマツツジの素晴らしい静かな山行でした。

☆野球部OB会

OB会会長 嶋田政昭

(昭和49年卒)

野球部OB会(葛城倶楽部)と現役の昨年の活動報告です。

1月16日 新年会(ポートプラザ ちばにて)

3月27日 予餞会&葛城倶楽部入会式(スポーツセンター)

5月8日 千葉商業高校との定

期戦…現役戦4…11×、OB戦24…5〇

5月26日 OB連合会ゴルフコンペ(レイクウッド総成CC)

7月12日《現役夏の大会》1回戦…対成東高校3…2サヨナラ勝ち!

7月14日 2回戦…対渋谷幕張高校1…13×

7月31日 OB野球大会 対千葉商業高校3…13×

9月25日 理事会 11月11日 野球部OBの東京葛城会を築地で開催

11月13日 理事会 11月20日 OBゴルフコンペ(千葉)

12月4日 理事会 OBチームで千葉市早朝野球連盟に入り、朝の5時半からボールを追いかけています。今年も現役共々よろしく願います。

☆自動車部

その存在と名簿整備のお願い

三宅 茂

(昭和30年卒)

かつて千葉高に存在した自動車部は、何故だか体育会系に属していて、旧校舎の表側から中庭に通じる半地下道のどちらかに部室があり、四関モーターズから寄贈された昭和11年製のダイハツ三輪車と同居していまし

た。

創設されたのは、第二次大戦の敗戦間もない頃、戦時中に存在したグライダー部(旧50Mブルの校庭寄りに格納庫があり、多分そこに部室もあった)が発展的に解消して、自動車部に移行したようです。また、戦時中には、校舎が陸軍に接収されていたため、軍が使用していたはずの自動車製のトラックと、トヨタ?の乗用車で部活動を始めたそうです。

前置きが長くなりましたが、千葉高にかつて自動車部が存在した証拠に、「自動車部の名簿」を作成したと思います。昭和30年卒以前については、私がやりますが、31年以降については、2年位順にずらしてゆけば、何とかなるのではないかと、出来れば歴代の部長にやつてもらえば、ありがたいと考えました。

この件は、同窓会事務局長の阿佐幸雄氏が昭和35年卒までは、分かる範囲での調査をしてくれました。連絡は、三宅茂までお願いします。

連絡先 〒266-0033

千葉市緑区おゆみ野南3-4-1

TEL&FAX 043-3376-

9381

E-mail: mykes@jcom.zaq.ne.jp

学年短信

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

毎年の開催で50回目になる昭和21・22年卒の同期会を期に、65頁の「米寿写真集」が出来上がった。それは県立千葉中第61・62期生の、筆舌に尽くし難い戦中の苦難の歴史から始まっている。

太平洋戦争の勃発から3か月、昭和17年3月の入学試験は筆記試験がなく面接と口頭試問だけ、戦時下の時局への覚悟だけを求める問いに答えなければならなかった。一年生は千葉中の伝統と異なる戦闘帽に制服も鞆もカーキ色の戦時色になって、週一回の学校農場の作業、登校時にはゲートルを付け、上級生に挙手の敬礼。二年生では木更津港での化学肥料の陸揚げ、椿森町の兵器補給廠から前線に送る物



資の梱包作業、三年の夏休みに下志津飛行場の滑走路延長作業に駅から戦歌を歌いながら往復する「行軍勤務」。その延長で終戦迄の一年間は、「学徒勤労動員令」によって船橋の日本建鉄工場での戦闘機「雷電」の中間組立作業に毎日通勤した。「神風」の鉢巻を締め、工場給食の雑炊をすすり、空腹に堪えずら木ハンマーでジュラルミンの鋳金を叩き機体を仕上げる労働で手は豆だらけ。

当時の中学校には必ず軍人が一人常駐し、軍事教練の指導に当たっていたが、その「配属将校」が時折り工場迄来て教練する。その度に予科練、幼年学校、陸士、海兵、陸軍特幹など実戦予備校へ「志願せよ」と檄を飛ばす事を忘れず、志願した十数名の級友を駅迄送った辛さも忘れられない。

昭和20年七夕の千葉市空襲で都川以北は一夜にして灰燼に帰し、翌月終戦。母校は「千葉県防衛本部」にもなっていた為、軍靴による傷だらけの教室廊下、昭和の初めに建てられ、県下随一の美しい校舎と称された佇まいも失われていた。ちな

みに、今回の「米寿記念写真集」の表紙には、昭和6年に新築された母校本館の時計塔が安西七郎先生の版画の傑作による麗姿として掲載されている。

平和な新時代の到来は苦難を共にした想い出の分だけ同期生の新しい絆を生み、「35年目の修学旅行」、船橋の工場を舞台にし



た「勤労動員を偲ぶ会」や、「入学50周年」「卒年50周年」などの同期会で有意義な再会を果たすことが出来た。同期50歳記念の「知命同窓会」では母校を訪問し、懐かしい恩師の早崎準一郎先生にも教室迄来て頂き「トンチ数学」の講義を受ける等、「33年振りの授業」を楽しんだ。「卒業50周年」記念同期会ではその年の千葉高入学試験の国語、社会、数学、三教科の問題に教室で挑戦し、講堂で複製の卒業証書を現役校長から頂く「50年目の卒業式」までやった。

私達の同期会は平成28年6月4日「ほてい家」での第50回で正式会合は終りにしたが、毎年6月第一土曜日としていた日取りで、平成29年以降も希望者で三々五々集まって交歓することにした。会場は引き続き「ほてい家」のつもりだったが閉店なので、西千葉の「みどり」にする。

最後の正式同期会にご出席いただいた鈴木一郎同窓会長、鈴木政男校長や同期会のいろいろな催しでお世話になった関係者の皆さんにあらためて深く感謝を申し上げます。

同窓会の、特に後輩諸兄弟の皆様には、創立百三十九年を迎える我等千葉高の一層の親睦の

為にもそれぞれの同期会がご盛
会に発展されるよう祈ってやみ
ません。

●昭和25年卒

矢島 肇

学年同期会の解散から数年が
過ぎた。友人の顔が一つずつ遠
退いて行く。その寂しい気持ち
は今は消えている。八十五歳の
仲間は今さら声を掛けるのは善
し悪しだ。病床に伏している人
足腰等悪くし不自由な人が誠に
多い。そんな人達に可成りのプ
レッシャーをかけてしまう。し
かし、友の近況を知りたがって
いる人もいる。年老いて来れば
皆んな不自由になる。身体が不
自由になると気持ちも病んで来る。
それは本人だけでなく家族に影
響する。不思議な事だが健康病
人には見舞が葉だが、真の病人
には特別の配慮が必要だ。

同期会は解散しても元氣な人
は、地域・職域等の葛城会へ、
又、クラブOB会等に参加し絆
を深めている。同期会は解散し
ても数人の同期で集る事は可能
と思っていたが、それが難しい。
暇は充分ある様に見えるが、老
人には老人のスケジュールがあ
る。二人で会う事すら儘ならな

い。高齢となると旗振り役が遠
のいて不在となる。若い時の様
に細かい仕事は億劫になり触れ
たくなくなる。活発に同期会を
行っている学年は面倒見の良い
人が居る事と潮時があったと思
う。高齢者にとつての生き甲斐
は未来への希望、夢ではなく、
過去の良き時代の友と接し話し
合う事の様である。

●昭和26年卒

久山 敬

同期会を隔年開催しており、
昨年(平成28年)は10月21日、昼
京葉銀行文化プラザにて開催し
ました。このところ逝去者が増
加し、前回まで元氣に参加して
いた顔が見られなくなったのは
大変寂しいものですが、まあ、
八十を過ぎれば仕方のないこと
だともいえるかと思えます。

今年は果たして何人集まっ
てくれるのかと気がかりではあり
ましたが、46人の参加者があり
ました。出たいのは山々だが体
が動かない、通院予定があり、
老々介護で出られない、という
人も結構ありました。開催日を
間違えて欠席というのもあり、
加齢のなせるわざかと他人事で
はないような気がします。

ご臨席いただいた早川先生は
東京オリンピック迄は頑張ると
宣言され、出席会員もそれぞれ
に旧交を温め、気焰をあげ、校歌、
応援歌をがなり、元氣に再会を
約して盛會裡に終了しました。

●昭和27年卒 二七会

会長 中村 作二

我が二七会は隔年の6月6日
に京葉銀行文化プラザで開くこ
とにしていましたが、昨年(平成
28年)は会場の都合で6月7日に
開催いたしました。

同窓会報44号で述べさせてい
ただいたように、私達は終戦直
後の混乱期の在校生でして、昭
和21年に旧制中学に入学した者、
24年に中学生で卒業した者と新
制高校から入学した者、および
中途で転入出した者など、生徒
の大幅な出入りがありましたの
で、一度でも一緒に机を並べたこ
とのある者を全部会員とするこ
と、して来ています。

さすがにこの歳になって前回
までのように百名を越す出席者
は望みませんでした。78名が
元氣に集まり、早川俊一先生の
ご出席をいただいで大いに談笑
し、楽しいひと時を過ごしまし
た。

今回は平成30年に、その次に
は平成32年(2020年)に集う
予定で、東京オリンピックの年
になり、ほとんどの者が数え年
88歳の米寿を迎えることになり
ますので、みんな元氣で集ろう
と話し合っています。

●昭和31年卒 (三二会)

山中 齋

我ら三二会員が母校に入学し
たのは、昭和二十八年四月であ
る。

その年の夏のことである。

運動場を通り抜け、畑の中の
道を急いで、何度千葉寺の県営
野球場に通ったことだろうか。

緑したたるスタンドで、何回
も「空たちこめし陣雲を」と「戦
歌」の大合唱をした。

千葉一高野球部は、千葉県大
会で準優勝、その余勢を駆って、
南関東大会を制覇し、第三十五
回高校野球選手権大会に駒を進
めたのである。

八月十六日大会第三日、日曜
日で快晴の甲子園球場で、静岡
商業と対戦、ゲームは強豪の前
に無念の涙を飲んだのであるが、
その試合に一年生ながら、三人
の三二会の仲間が出場した。

六番ライトで先発出場し、何

と二安打を放った共田君(故人)、
リリーフ投手として二回三分の一
を投げた宮間君、裏方のマネー
ジャーとしてベンチを支えた伴
君(故人)である。

この三人はまた奇しくも私と
同じクラスの級友でもあった。

後日、甲子園から帰った宮間
君に、マウンドの感想を聞くと、
「満員のスタンドが、全面真っ白
に盛り上がっていてホームプレー
トは限りなく遠かった」と。

あの時の彼の言葉が、六十三
年後の今も耳の奥に残る。

三二会の仲間の、青春の日の
思い出である。

●昭和32年(定)卒さんにい会

福原 肇

平成26年は喜寿の祝目前に四
名の友が、彼岸へ旅立ち、服喪
としました。28年、亡き友を偲
び三回忌の供養を行い、忌明け
です。

大野宜剛君の企画で10月10日
『傘寿を祝う会』を三井ガーデン
ホテルで開催しました。旧三中
の同期会でしたが、千葉一高の
友も十五名参加しました。

車椅子・ヘルパー同伴で駆け
付けた友…とても楽しい一日で
した。話題は昭和28年にタイム

スリッパ、教室が無く二中やアパートでの間借り教室・千葉一高では裸電球下での勉強でしたが皆、生きている喜びに満ち溢れていました。

●昭和36年卒

代表幹事 田那村 宏

既に卒業後半世紀を超え、人生の残る四半世紀に向けて、恒例の8月幹事会では、各クラス幹事20名が参加して、満75歳になる今年(平成29年)10月22日(日)午後と同窓会開催が決まりました。会場は「ほてい家」が候補でしたが、時代の流れで昨年10月に閉館、今回は「ホテルプラザ菜の花」を予定しています。この幹事会では、成田で活躍されながら、一昨年11月に逝去された幹事の諸岡孝昭氏のご冥福を改めてお祈りいたしました。

前回平成26年の午年記念同窓会は、71名の出席で、旧交を温めることが出来ました。中締めは、その故諸岡氏の元気なご挨拶でした。

青春時代を過ごした母校のある中心市街が、最近急変しています。昨年11月20日J.R千葉新駅舎開業、中央公園前の千葉パルコの閉店・今年3月三越千葉

店も閉店とされ、中心市街地の空洞化が加速されるのか、旧友と、当時を振り返る機会が今後の同窓会の重要な役割と思う此の頃です。

「百歳まで元気でいる」と同窓会で語る同期生がありました。まさに現実、今後は、健康寿命を大切に、社会に貢献する時代になっています。若い方々も、これからは百年の人生設計を持つて歩んで行く社会になると思います。自然の激変・社会の変化・科学の急速な進化への対応に、母校の期待が膨らみます。

さて次回は2年後77歳、喜寿記念同窓会が予定されています。健康で多くの参加・再会を期待しています。

●昭和39年(定) 卒

三井 芳夫

【家庭の事情】

平成28年の同期会は、10月22日、17名の参加です。最近千葉駅前でも、土日の営業が少なく、会場を変えました。本千葉駅前集合です。卒業後53年振りの、本千葉です。

房総西線での通学が多く、今でも住居もずっとその儘で集まりやすく、帰りも連れが有り、

見送るのも心配が無く、又、来年です。57年前、千葉一高夜間部入学で出会った人達、数年前からは毎年開催ですので、その時々都合が良ければ、私は葉書を出すだけ、無理は言いません。

山崎君が、大事に大事に持っていた「第16回卒業生名簿」を借り、皆さんにコピーをして送りました。たった4ページでしたが、私達にとっては宝物です。

卒業後の消息、職場の理解がない時代で通えなくなった仲間、出席したくても、出席できない方の理由、総てが『家庭の事情』です。今、テレビ朝日の番組に「アイツ、今何してる」がありますが、これです。来年は、この話を私が知っている、その後の話をテ



マにします。写真は当日二次会でのショットです。

●昭和40年(定) 卒 OSB会

幹事長 谷中 勝美

【OSB会今年も一泊で開催】

昭和36年入学した当時一年生二年生のクラスで結成した同窓会『OSB会』を、今年も一泊で6月16、17日の両日に長生郡白子町『ホテル白洋』にて開催しました。6名の出席者でした。結成から51年、25回目の開催と成ります。

全員古希を迎え、今年は喜寿ですが、これから先、何回開催できるかわかりませんが、この貴重な時間を大切に過ごすこと、



来年も開催することを確認し、深夜まで語り合つて友情を深めました。

●昭和41年卒

世話役二員 永 栄 潔

「葛城41の会」の名称がいつ定着したかわつたのですが、8月最終土曜の夕、その名で同期生が集まり、昨年は第40回でした。卒業年や卒業校が違おうがみな会員ですから、正体は「入学同期の桜会」でしょうか。

昨年の出席者は78人でした。常連組が4人も急逝し、その分寂しくなりましたが、初参加もあつて久闊を叙せました。

亡くなったのは、高野彰、富永秀利、松丸久の三君と、松田道子(旧姓・笹本)さんですが、部活などを通し先輩後輩とも付き合いが深かった人たちですから、驚いた方も多いことでしょう。会は献杯に続き、交遊の深かった友人が4人の思い出をこもこも語り、一同で永別を惜しみました。

我々も今年は何と古稀です。気分はまだ高校生なのですが、「残暑の会合は堪える」との声もあり、今年は開催時期を一か月遅らせることになりそうです。暑気がきついと化粧が落ちて

しまうそうですね。長年苦勞してきた女性陣に感謝です。

古稀の会は、卓を卒業時の組分けから二年次のそれに替えてみようとの案が出、採用されました。2年の名簿も9組の



うち3クラスから出てきました(ちゃんと残してある人がいるんですよ)。不明分は京都修学旅行で撮った組別集合写真を会場に貼り、座わる席を見つけあいます。意外にオツかも。

写真は昨年の同期会場(真行寺 豊君撮影。「ポートプラザちば」で)

●昭和43年卒

伊藤 三平

通算8回目の同期会(還暦後は2年ごと)を開催。今回も余剰金還元のために会費を五千円にし、出席者は105名である。当同期会の特色は充実した近況報告で、今回は188人から寄稿があり、39頁の冊子になる。1行で済ます者から、2頁近く書く者まで様々。欠席者には同期会HP上でパスワード付きで公開している。

8回目にして同期会初参加者が2名で、一度でも同期会に参加した人は231人になる。残念なのは前々回・前回の間の逝去者2名が、前回・今回の2年で6人となったことだ。加速度がつかないことを祈る。

去年は3H、1C、2Dがクラス会を開催、またテニス部も

小旅行をしている。同期会があるので開催しなかったが2E、3Bのクラス会もある。ゴルフコンペは春秋2回で31回を数え、最近では毎回20人前後が参加している。

会うと、お互いに病氣自慢、薬自慢が始まるが、その割に元氣だ。

先輩から「60代後半から70代前半が一番いいぞ。仕事をしなくていいし、時間はあるし、身体は動くし、頭も大丈夫。そして金も使える」と言われる。渦中にあると記憶力の衰えや、身体のうちこちの不具合に嫌になるが、後で振り返ると、そうなのかもしれない。

●昭和44年卒

森 茂

【隙間とアソビ】

平成28年の秋、同い年の友人10人程で、箱根・泊旅行に行ってきました。高校生になってから約50年(！)。昼酒と宴会でゆっくり飲み交わしながらのオジ(イ)サン達の話は「これからの過ごし方」。

もちろん「健康」が大切で、旅行や同期会そして社会への参加

も、元気でなくては叶わぬこと。また「家族」や「お金」も重要で、「金は幸福を約束はしないが、不幸を回避するために役立つ」との名言に深く頷くのでした。さらに、「隙間やアソビ」も不可欠で、閑節がギシギシするのは隙間の具合がヨロシク無く、またアソビ心が無いと浮世を愉しく暮らしていく上で支障がありそうです。

これからの生活が隠居となる人も居れば、現役バリバリの経営者の方もいますが、「葛城が岡」という共通の思い出を胸に、これからもお互いに元気で会いましょう！

※ 次回(第6回)の同期会は、平成30年秋の予定です。

●昭和47年卒

佐渡 斉

千葉高等学校同窓会の皆様には、平素より四街道市政に對しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、母校の発展に寄与されていますことに、深く敬意を表する次第であります。

さて、平成28年11月に開催されました県庁千友会総会に私も参加させていただき、追想にふ

けるとともに、世代を超えた親睦の輪を広げることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。このように様々な機会でも同窓の皆様にお会いしますが、いつも母校に対する誇りと愛情を感じます。

日本が少子高齢化・人口減少局面に入っている中で、四街道市は、「人みどり子育て選ばれる安心快適都市 四街道」を将来都市像に掲げ、すべての人が健康で生きがいを持ち安心して生活できるまちづくりを進めています。

皆様には、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、千葉高等学校同窓会の益々の発展と皆様の親睦の輪が大きく広がることを祈念いたします。(四街道市長)

●昭和49年卒

齋藤 京子

(旧姓・椎名)

平成28年2月13日千葉高同窓会総会が行われました。永久幹事の嶋田君より数年前から同期会の度に、還暦を迎える学年が同窓会総会・懇親会の幹事を務める旨刷り込まれていたので、

前年度の総会のヘルプも当然のことのように参加し、このシステムはなかなか良く出来ているなど実感いたしました。

前年の秋頃から何回も打ち合わせを行い、準備を進めました。絶大なるリーダーシップの持ち主の嶋田君、名MCの羽田君(いつも打合せの場所と茶菓子を提供下さいました。)、名お目付け役の永野君(うん蓄ある苦言を多々頂戴しました。)、名女房役の佐藤京子さん(彼女の華麗な書体の同期会案内状を多くの先生方がご覧になられたはず)を始め、多くの個性溢れるメンバーが集い、しかも日を追うごとにその数が増えていくのは頼もしい限りでした。今更ながらこんな素晴らしい仲間に囲まれていたのだと気付かされました。同時に当時はハチャメチャだった私たちが慈愛に満ちた眼差しで見守って下さった、多くの個人的な先生方に感謝したい思いに充ちられました。

人生の第3クォーターを回った私たちですが、これからもこの絆を大切に、末永くお付き合いをお願いしたいと思う今日の頃です。

●昭和50年卒

園部 創

ついに還暦幹事になった。同窓会総会に参加するようになって待つこと14年、長いようで短かった。ここ最近では時間の経つスピードが加速して、歳を重ねるのが本当に早くなったと感じている。

同窓会懇親会の準備は少々遅めの10月スタート。新しくデパート整備された同窓会名簿の精査と案内状の発送準備、そして当日の総会・懇親会の運営準備等、代表幹事が集まって計画を練った。50年卒ならではの企画を盛り込みながら、来場した同窓生が懐かしく楽しく語れる場を設けることに注力した。盛会となることを期待したい。

当日は50年卒同期の同窓会も二次会として開催する。思い起こせば、初めての同窓会が平成2年(1990年)に京成ホテルで49年卒の先輩と合同で開催。34歳だった。2回目はちょっと年月が経って46歳になった平成14年(2002年)10月13日にホテルサンガーデン千葉(現三井ガーデンホテル千葉)で、49年卒、50年卒、51年卒の3学年合同開催。3回目は平成19年(2007年)

11月24日に千葉市文化交流プラザ(現京葉銀行文化プラザ)で49年卒の先輩との合同開催、51歳。

4回目は平成24年(2012年)11月17日に京成ホテルミラマールにて50年卒56歳にして初の単独開催だった。そして今回が5回目として平成29年(2017年)2月4日に京成ホテルミラマールで60歳の還暦を祝う会となる。5年に1度開催しているが、これからも人生いろいろありそうなので、もう少し短縮するべきかどうか検討が必要かもしれない。そして、諸先輩方の同窓会のように、旅行会やゴルフ会など、活動の範囲を広げていきたいと考えている。

●昭和60年卒

埴 良太郎

2016年11月19日、学年同窓会を開きました。5人の先生にお越しいただき、100人を大きく上回る同窓生が参加。13時から始まった会は非常に盛り上がり、二次会100名、三次会でも70人程が

杯を交わしていました。

私たちの代も、ついに50歳の節目を迎えました。社会や家庭では、皆がそれなりの「大人」として振る舞っているはずですが、しかし、いざ顔を突き合わせてみると、いつの間にか高校時代と同じ表情になっている。本当に不思議なことです。

同窓会の盛り上がりには、SNSが一役買っています。フェイス



スブック上の非公開グループでは普段から他愛ない雑談をしたり、飲み会やバーベキュー、スポーツ観戦会、芸術鑑賞会などのイベントを企画したりしています。こうした「同級生同士がゆるくつながる場所」があるからこそ、同窓会で久しぶりに会っても、すぐに高校生気分に戻ってワイワイガヤガヤできるのかもしれない。

10年後の2020年には、私たちが全体同窓会の幹事を担当します。その頃まで「ゆるいつながり」を楽しみながら、幹事として会を盛り上げられるよう頑張りたいと思います。

●昭和61年卒

増田 淳

高校時代は授業と部活が終わりと真つ直ぐ家に帰って勉強、なんてことは無かった。特に天気の良い日の午後などは、仲間と連れ立って見聞を広めた(こんなこと書いていいのかな?)。正門の坂を下り、図書館の横を通り県庁を抜け、迷わず繁華街へ。皆、忙しい勉強の合間に、束の間の自由を謳歌していたものである。

あれから三十年。セントラル

プラザは既に無く、尾崎豊のレコードを買った新星堂も、溜まり場となっていたゲームセンターも今は無い。ほてい家の灯も消えてしまった。

過日、二十年ぶりのクラス会に出席。まずは千葉高に集合し、校内を散策。ここだけは時間が止まったかのように何も変わらな。その後、往時のルートを歩いて繁華街へ。恩師の坂本先生を交えて、この秋に閉店したパルコのレストランで昔話に花を咲かせた。町や社会が大きく変貌を遂げた中で、良くも悪くも自分たちだけは未来永劫変わらないんだと改めて思う。

折しも時雨の季節。ばらばらと来たかと思えばいつの間にか止んでいて青空が覗いている。振り返れば高校生活の三年間は、天候が移ろう間に過ぎ去った、ほんの一瞬の出来事だったように思う。一瞬の中に喜怒哀楽のすべてが詰まっていた。いつしか記憶は色褪せ、華やきは遠い過去のものになろうとも、忘れ難き高校時代。まさに人生は夢火花。夏の花火は一瞬で消えてしまつたが、想い出は僕達の中で燦然と輝き続ける。

●昭和63年卒

渡邊 健太郎

千葉高を卒業して、当学年ももうすぐ30年、本年は多くの同期生(昭和44年生まれ)が4回目の年男・年女を迎えることになります。先日、野球部のOBゴルフコンペに参加し、諸先輩方及び数名の同期生と楽しい時間を過ごしました。同期生は、まだまだ第一線で忙しく働いていますが、この約30年という期間に、どの同期生も、短時間では語り尽くせないような経験をしてきたのだろうな、と感じました。

私自身も、幾多の紆余曲折を経て、40代半ばを過ぎて二児の父となると、千葉高卒業時には全く想像もできなかった人生を送っています。子供たちが成人して独立するまであと20年以上、70歳近くまで稼がねばと思うと気が遠くなりますが、千葉高で培った体力と気力で乗り切りたいと思います。

40歳で東京都内に住むようになってから(大学卒業後はしばらく茨城県に居住していましたが)千葉高の同期生と会う機会が増えてきました。同期生と会うと、心はすっかり千葉高時代に帰って、驚くほどピンポイント

トの細かい思い出で盛り上がります。こういう時間は、これからも大切にしていきたいと思えます。今年も、どんな同期生との再会があるか、とても楽しみです。

●平成4年卒

学年理事 石渡 宏臣

平成28年2月14日、我々平成4年卒業生は、千葉高校同窓会総会・懇親会の二次会として、ホテルプラザ葉の花にて学年同窓会を実施しました。

約8年ぶりの学年同窓会では、



33名の参加者が集い、お互いに初めて話をする方も多くいましたが、共通の話題を通じてすぐに打ち解け、参加者は皆、四半世紀前の高校生時代に帰ってしまいました。また、高校卒業以降、様々な分野における同窓生のご活躍を伺うことができ、いわば異業種交流の側面も垣間見え、互いに良い刺激を受ける機会になったと思います。

最後は、年甲斐もなく日付が変わる時間まで、同窓生同士で楽しい思い出話に花を咲かせることができました。次回は、東京オリンピックの頃に集まることを誓い、名残り惜しいながらも、同窓生それぞれの益々の活躍を祈念して散会しました。

●平成12年卒

東 寿浩

千葉高を卒業して16年が過ぎました。この同窓会報が発行される頃には、入学から約20年経ったことになりました。20年前、学力不足だった私にとって高校入試の受験勉強は本当に辛く、中学校の担任の先生からも「志望校を変えろ」と言われ続けましたが、何とか初志貫徹することができ、合格発表、そして入学式の日の喜びを今でも昨日のこと

のように覚えています。あの受験勉強を乗り越えることができたのだから、仕事の辛さなど取るに足らぬと思つて日々頑張っています。

我々平成12年卒は、学年全体の同期会こそまだ開かれていませんが、小さな集まりの中から「全体の同期会をやってみたいね」という声が少しずつ出てきています。再び集う日は、もしかしたら近いのかもしれないや、近づけてみせます。

35歳。仕事、子育てに忙しい年代ではありますが、時には昔を懐かしみながら、これからの時代を歩んでいきたいと思っています。

●平成18年卒

戸澤 庸子

(旧姓・長尾)

「どのような人生を送るかは各人の自由です。何を喜びにするのかも人によって全く違います。(中略)10分時間が経過すれば、あなたの命は10分縮まります。そういう意味で時間と命は等価です。(中略)『時間をどのように使うかが大切だ』とよく言われますが、これは『命をどのように使うかが大切だ』ということでもあります。」

これは私が高校を卒業するときに、地学の森谷先生から頂いたプリントの一節である。先生の柔らかな笑顔の下には「生徒の皆が、満足した人生を送る手助けをしたい」という、静かな気迫があった。先生がガンで亡くなったのは2012年の夏。既に4年以上の月日が経った。先生の生きられなかったこの日々、私は一体何をなすことができただろう。「私がどうのこうのではなく、あなたが後悔しないように生きたかどうかですよ」そう微笑む先生が目浮かぶ。

私たちは今年30歳になる。目の前のことに取り組むだけでなく、命の残り時間を意識することが大事になってくるのだろうか。仕事、子育て、介護…。様々なことで悩む時間がこれからやってくると思うが、色とりどりの思い出を携えて、森谷先生に再会できる人生を歩んでいきたい。

●平成26年卒

同期会長 小川 淑生

「おいー！ラブ川食堂だよー！」
このかけ声で、YouTubeチャンネル「ラブ川食堂」が始まる。このチャンネルでは、ワイルドな男子がお酒を飲みながら

料理をする。20歳を過ぎ、お酒を覚え始めた料理好きの私は、ついつい見入ってしまった。

YouTube上では、好きなことを題材に動画を作成し広告収入を得る、「YouTuber」と呼ばれる人たちが活躍している。

「好きなことで、生きていく」これは、少し前にYouTubeのCMで使われたコピーだ。私の同期には、様々な方面で既に名を上げている人たちがいる。学術方面ではもちろんのこと、その他、漫画、バンド、演劇などの芸術分野でも話に事欠くことがない。

私にもいくつか趣味・好きなことがあるが、それを仕事に結びつけるのか、はたまた切り離して「趣味は趣味」と割り切るのか、非常に悩ましいところだ。私たちは、早い人たちは就活をしている代。これが会報に載る頃には、終わっている人もいるだろうか。

どこの高校に進むか・どこか大学に進むか、これらはせいぜい数年先までの決断。しかし、何を仕事にするかは、この先何十年の決断である。

先輩方の誰しもが通った道かとは思いますが、我々の代は、今、

このような年齢です。

●平成27年卒

同期会長 岡 悠介

去る1月7日、67期成人記念同窓会を開催させていただきました。まず初めに、この場をお借りしまして阿佐事務局長を始めとする千葉高の先輩方、そして会の運営に関わっていただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

今年のお出席者は恩師・来賓12名、同期271名、計283名と非常に大規模なものとなりました。(同期のお出席率85%)

卒業から2年という月日が経過しました。この2年という月日は仲の良かった千葉高の同期の間にもどうしても差を生じさせてしまうものです。頻繁に連絡を取っていた人と卒業以来の再開の人。大きく変わった人と高校時代の面影を強く残す人。しかし、今回の同窓会はそのような差をなかったものとする会になったのではないかと思います。誰もがみな、高校の校舎で過ごしていたあの頃のような雰囲気の中、各々の変わりように目を見開き、あるいは懐かしさ

に目を細め、過去・現在・未来の話に花を咲かせていたと思います。

次にこのような会を開催することが出来るのがいつになるのかはわかりません。その頃には月日の力により同期の間には現在よりも大きな差が生じていることでしょう。

しかし私は何年経っても同窓会で同期と集合すれば、またあの頃の雰囲気に戻る事が出来ると思います。今回強く実感いたしました。またこのような会を開かせていただき、一人でも多くの人と楽しい時間を過ごすことが出来る日を楽しみにしています。



祝 成人記念 卒後第1回同期会 千葉県立千葉高等学校同窓会



葛城脈 ②

市川雅夫さん(昭和29年卒)

アイティーアイ株式会社 代表取締役会長

千葉高を巣立った卒業生は3万6千名を超える。様々な世界で活躍をしている卒業生も多く、「原点は千葉高だった」という声をよく耳にする。この「葛城人脈」では、最前線で活躍する卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流を探る。聞き手は東寿浩さん(平成12年卒)

戦後の青春時代

—— よろしくお願ひいたします。

市川雅夫(以下、市川) よろしくお願ひします。生まれは本納町(現茂原市)です。外房線は当時房総東線といって、電車でなく蒸気機関車でした。本納から千葉に行くときは大網駅で折り返して、土気に行くまでの急な坂を超える力が足りなくて、汽車を下りて後ろから押したことがあります。今では本千葉駅まで30分程度でしょうが、1時間くらいかかっていました。——昭和11年の早生まれとなると、国民学校の世代ですね。

市川 戦時下は国民学校と言われていました。戦後の昭和22年、6年生の時に学制改革で新制中学校ができました。ただ、いきなり中学校の建物なんかあるわけがないので、本納小学校の講堂を中学校ということにしていました。隣の茂原に軍が使っていた飛行場があって、そこを解体して屋根や瓦をトラックで持って来て、田んぼの

埋立地に中学校の校舎を作りました。中学校1年生の終わり位から新しい校舎で勉強ができました。

——すごい時代ですね。

市川 高校では柔道部に入りましたが、占領軍の政策で武道が禁止されていたから、おおつぱらには柔道や剣道、空手なんかはできなかった。高校に入ったのが昭和26年、サンフランシスコ講和会議の年です。そういうわけで、当時はテニスやサッカー、バスケットボールなどの人気が高かった。野球はもちろん問題がなかったわけですが。

——甲子園に出た学年ですね。

市川 そうです。同級生の植草君が主戦投手で大変盛り上がりましたね。当時の千葉県は甲子園に出る学校というのはほとんど決まっています。千葉高(当時は千葉一高)、千葉商業高校、銚子商業高校などでした。その後から習志野や市立船橋などが強くなってきました。——当時も茂原から千葉高を受検できたのですか？

市川 越境入学ということになりますね。東金、大網、本納、茂原、一ノ宮、御宿、勝浦などから来ている同級生も多かったんです。朝早く家を出て通っていましたね。女子はまだ少なかったですね。その中の一人である市原悦子さんは3年生の時の同級生です。彼女は卒業後、俳優座養成所に入学し、俳優の道に進んだのですが、高校時代より一味違うものを持っていました。例えば国語の時間に教科書を読むようにと指示されると、棒読みではなく登場人物の会話を声色を変えて音読していました。私はこれには驚きました。

結核に罹ったけれど……

——当時の大学受験はどのような感じだったのでしょうか？

市川 大学進学率は今よりもずっと低く、大学に行くのは千葉高でも学年の半分くらいだったかな。私自身は現役では駄目でしたが、翌年いくつかの大学に合格して、いずれビジネスに携わるだろうから、法律を勉強すべきと思いましたので、慶應義塾大学の法学部法律学科に入りました。

——私も一浪です(笑)。法学部ということは、司法試験もお考えだったのですか？

市川 いやいや(笑)。ただね、大学に入って遊んでばかりいたら、結核になってしまつて……。半年く

らい入院しました。

——そうでしたか……。戦前は不治の病と言われていたようですが。

市川 あの当時もそうでしたよ。結核にならなければ、南米に移住しようと思つていました。南米に移住しても密かに思っていました。それもできなくなつてしまいました。当時、東京大学の泉靖一教授が書いた南米移民の本を読んで、南米で一旗揚げてやろうと思つていたんです。でも、もし移住していたらそこで野垂れ死んでいたかもしれないですね(笑)。まあ、幸いそのころストレプトマイシンという特效薬が発明され、何とか治りました。とはいえ、結核の既往歴があると大きな企業はどれも雇ってくれない。ようやく雇ってくれたのができたばかりの日機装という会社でした。

——今ではとても大きな会社ですね。当時はどのような雰囲気でしたか？

市川 その当時は設立5、6年で50名足らずの会社で、入社するなりいきなり何部かの英語のカタログを渡されて、面白いと思うものがあつたらそれを売りたいと言われました(笑)。学校時代ろくすっぽ英語なんて勉強していなかったもので、辞書を引き引き何とか調べても、専門用語なんか辞書に載っていない。それで上司に聞いたら、とても優秀な方で、「それはね、こういう、こうだよ」と教えてくれるんです。上司の方は東京帝国大学の「銀

時計組」という、卒業するときに天皇陛下から銀時計を頂戴した帝大の中でも飛びぬけて優秀な方でした。なんでそんな優秀な人がここにいるのかというと、技術将校として軍隊で働いていたものの、戦後はGHQよりパージされて、大企業や官公庁で働くことができなくなつてしまつていて、そういう人たちが集まつて日機装を作つたということです。

——なんと……！

市川 それでカタログを読んで訳して、「この商品についてはどこの会社を持っていきたいだろうか」と考えてあつちこちの会社へ電話をして、「こういうものを扱っている会社ですね、ご関心のある方はいらっしゃいませんか」とうか」と言つて動き回つたわけです。冷たくあしらわれることも多かったですが、親切な人もいて、「あんたね、この程度のことも分からんで物を売ろうつたって無理だよ。教えてやるよ」と教えてくれる人もいます(笑)。「うちでは扱わないけれど、友達がいる会社だったら関心を持つかもしれないから行ってみな」と紹介してくれた。それが後年大きく役に立ちました。そんな風に、自分で自分の仕事を創つていきました。それが、私の一番の特徴かな。上司に恵まれたことと、自分で考へて仕事をしたことが社会人としての基礎を作ってくれました。

長崎での創業

—では、なぜ長崎に？—

市川 家内の実家が長崎で。家内の父親が小さな会社を営んでいましたが、その父が亡くなり経営がうまくいってないのを見かねて、「じゃあ俺が行って協力しようか」と思ったんです。こと営業については自信があったから、きつとうまくいくんじゃないかと(笑)。ただ、家内には弟がいるから後は継ぐつもりもなく、立て直しが終わったら自分の会社を作りたいというのが条件でした。それで事務所の一角を借りて、家内と二人で「市川商事」を立ち上げました。結局はその家業も継ぐことになるのですが、それは後の話です。

—最初はどんなことを？—

市川 長崎は三菱の街です。家内の実家も三菱さんがお客さんで、



Profile

市川雅夫 (いちかわ・まさお)

1936年生まれ。千葉一高時代は柔道部に所属。慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、日機装に入社、1966年、長崎に移住、市川商事を創立。

現在、アイティーアイ株式会社代表取締役会長。グループ会社10社を抱え、年商800億円強。医療機器、産業機械など幅広くビジネスを展開している。

会社の仕事で三菱に出入りして仕事が終わると市川商事の名刺を出して、「実は自分でこういう会社もやっていまして……」って言って自分の会社のカタログを渡してしま

した。最初の注文は三菱重工のロケットに使われる部品で、配管材料やガス漏れを発見する「リークディテクター」というものでした。東京のサラリーマン時代に航空系の研究所に出入りしていたことが役立ちました。あと、三菱高島炭鉱(現在の軍艦島)に大学時代の友人が就職して資材部にいたので、「おい、俺のここから何か買ってくれよ」と頼んだら、「鉱夫が身に付けているガス探知機の修理の仕事だったらあるぞ」と言われて。炭鉱の中は高温多湿で、いつガス爆発するかわからないので、いくつも計器をつけるのだけど、湿気ですぐダメになるわけですね。福岡県の計測機器メーカー

を紹介してもらい、卸販売と修理の仕事もやりました。

ターニングポイントは、前職の日機装が人工腎臓をアメリカから輸入することになって、長崎大学に腎臓病の大家の近藤教授という方がいらっしやるから売り込んでほしいと、かつての部下に頼まれたことです。忙しいからそんなことやっていられないか、と断りましたが、「アメリカの最新の医療機器を扱ってほしいような医療機器屋さんは全国どこにもありません。市川さんだったらできるからやってくださいよ」と言われ、仕方なく引き受けた。そしてそれが当たっちゃった(笑)。

—透析ですか。

市川 当時はお医者さんです。透析という言葉を知らない時代です。やりだしたら、いい加減にやるわけにはいかない。機械だから修理をしなければいけない。そのため、四人目の社員に技術職を入れました。それで広がっていき、次第にネットワークができてきました。今では、透析機器の販売では日本のナンバーワンです。ただ、透析機器をいくら売っていてもいずれば飽和してしまふだろうと思ひ、そこで循環器用のチューブや心停止時にショックを与える機械など、アメリカの会社のトップクラスの商品を選択的に販売しました。今までの医療機器商社がやらないようなことをやっていくなかで、九州を地盤に

してマーケットが広がっていききました。50年経った現在、年商600億円弱の会社になりました。30年前に現在の社名、アイティーアイに改称しました。東京のグループ会社であるアイティーシーは35年前につくりまして、現在約140億円の年商になりました。

—事業が大きくなっていくとお一人でカバーされるのも大変ですね。

市川 もちろん、組織でやっていかないと。社員はアイティーアイは500人以上、グループ連結で850人くらいになりました。

—若い方も入ってこられるわけですね。

市川 昔とは時代が違うから、さすがに教育もせずに突き放すわけにはいかなないので、可能な限り社員教育もしております。でも、そこからは自分であれこれ苦労しながら、自分のやり方をつくっていかなくては行けません。そうじゃないと伸びない。それは出版社も同じでしょう？

—そうですね、人から指示をされるのが嫌な人がいく職種ですね(笑)。

長崎から東京へ

—長崎で創業されて、東京に拠点を持たれた時のお気持ちはいかがでしたか？

市川 それはやはり、千葉で生まれて30歳まで東京にいたわけだから、九州で成功するだけじゃ満足し

ませんよ。日本の中心は東京だもの。長崎に行った50年前から、いずれは東京でやらなくちゃいけないと思っていました。行つてすぐの頃は、2、3年経つたらできるだろうと思ってた。しかしそう甘くはない(笑)。結局15年かかりました。

—私も関西勤務が長かったのですが、関西では阪急の小林一三さんの人気が高かったです。小林さんは東京から関西に行つて阪急を大きくして、そして東京に再進出しましたが、そのストーリーと重なるように思いました。

市川 そうね、長崎県出身の松永安左エ門さんだって同じでしょ。慶應大学を卒業して、博多で仕事を始めて、東京ではまだ無理だと思ひ、名古屋で東邦電力を作つて、そこで力をつけて今の東京電力を作った。電力王ですね。やっぱり国の中心地に行かないと。外国から入ってくるニュースにしても、一番早いのは東京ですからね。

—最後に、最近の若い卒業生の方に向けたメッセージをお願いします。

市川 自分流。人真似じゃなくて、自分で目標をつくってやっていくことがどんな仕事でも大事だと思います。人から教えられて、これやれとかあれやれじゃなくて、自分で考えながら、人がやらないことをやっていく、これが一番ですね。

—貴重なお話、ありがとうございました。

同窓会は、母校の社会人講演会に 講師派遣と支援をしています。

◎千葉県立千葉高等学校

■第1学年卒業生講演会

毎年6月、総合学習の時間にその年の同窓会総会を幹事学年として担当した卒業生が、1年生に対して講演をしています。平成28年の卒業生講演会(1年・総合学習)は、

日時 6月7日(火)

講師 松本 博氏(昭和49年卒)
演題 「学習と教育と研究と」

■第2学年卒業生講演会

―先輩に学ぶ―

若手卒業生が自らの体験を踏まえ大学・大学院などの進学や職業などの進路選択について情報提供し、人材輩出という千葉高の伝統を保持発展させようと実施しています。講師は社会の中心で活躍中かつ在校生にも親しみやすい世代の有志。講堂で全体紹介の後、教室に分かれた分科会には生徒が各自選択して聴講し、熱心に質疑も行われます。

昨年10月22日の第13回は次の

7名の卒業生が講演しました。

岡崎 真氏(平成元年卒)
橋本 剛氏(平成元年卒)
松永 正弘氏(平成元年卒)
中川 篤史氏(平成2年卒)
駒野 雄一氏(平成9年卒)
東 寿浩氏(平成12年卒)
千葉 園子氏(平成19年卒)

■インターンシップ

1年生を対象に行なわれるインターンシップにも事業協力しました。

日時 12月19日(月)～21日(水)

(希望者対象)



【会報送付希望の方へ】

同窓会報は総会などでの配布が主でしたが、卒業生と母校の共通の話題とできるよう、お送りすることにいたしました。ご希望の方は、同窓会に氏名・卒業年・ご住所をご連絡ください。

千葉高同窓会事務局

〒260-0853 千葉市中央区葛城 1-5-2 県立千葉高校内

☎043-239-5550 FAX.043-239-5551

E-mailとホームページのアドレスは各ページ下に記載

●個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。

ゆうちょ銀行 00140-6-336678

加入者名 千葉県立千葉高等学校同窓会

◎中学校総合学習協力 社会人講演会に講師派遣

千葉中学校「社会人講演会」への講師派遣を平成27年も同窓会として支援しました。

●平成28年1月15日(金)

『地域振興と地域貢献』
講師・西田 直海氏

NPO法人Drops代表

●平成28年7月1日

『発明とは何か』

―特許を得るには―

講師・弁理士 金子 彩子氏
弁理士 加藤 晃氏

葛城だより

◎平成28年度受章者

心からお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

旭日小綬章 鈴木雅博(昭33)
瑞宝小綬章 佐藤英幸(昭36)
瑞宝小綬章 布施 剛(昭36)

(敬称略・卒業年順)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

杉田順三(昭19) 28年10月22日
松崎一康(昭20) 28年4月30日
渡邊貞亮(昭33) 28年12月9日
原田盛昭(昭35) 28年5月29日
中沢光好(昭42) 28年4月15日

(敬称略・卒業年順)

◎寄付者(同窓会宛)

心から御礼申し上げます。

●昭和49年卒同期会

(平成28年度総会・懇親会幹事年度)

501,000円

●平成27年卒同期会

199円

●昭和21・22年卒同期会

100,000円

(敬称略)

編集後記

◆同窓会報に多くの原稿をお寄せいただきありがとうございます。今年も同窓会の皆さんにご協力いただき、会報が出来上がりました。私は担当4年目になりますが、先輩方の母校愛に満ちた原稿を読んでは、自身の仕事への意識を高めております。

◆さて、この4月に入学する県立千葉中生は第10期生、つまり中高一貫校になって10年目になるということになります。この伝統ある千葉高校の「中高一貫校としての在り方」を改めて考えてみる節目の時期とも言える気がします。世間では受験の結果等に注目が集まっているようですが、皆さまはどのようにお考えでしょう。中学校と高校、どちらも担当した身として、いろいろなことを考えます。

◆教員として、そして卒業生の一人として、現役の生徒たちが本校の良き伝統を理解し、充実した学校生活を送ることができるよう、これからも私の出来ることを頑張りたいと思っています。

松井洋平(平成21年卒)